

環境省による自然共生サイトへの 認定申請を通して

君津グリーンセンター（元樹芸林業試験場）

内山緑地建設株式会社 取締役 関根 武
内山緑地建設株式会社 関東統括部 山室 功

一. はじめに

一九九二年ブラジルのリオデ
ヤネイロで開催、翌年発効された
「生物の多様性に関する条約
(CBD: Convention on Biological
Diversity)」はその後、参加各国
で何度も会議を重ねてアップデー
トされ、二〇二二年カナダ・モン
トリオールにおける第一五回締約
国会議(COP15)に引き継がれ
てきた。また、二〇一〇年愛知県

名古屋市中で開催されたCOP10で
30 by 30目標が合意された。これ
は二〇三〇年までに生物多様性の
損失を食い止め、反転させ、陸域
三〇%、海域三〇%を保全する目
標である。

現在、日本では陸域二〇・五%、
海域一三・三%が保護地域として

保全されている。陸域では目標ま
で一〇%弱不足していることから
民間の協力も必須である。環境省
は、二〇二一年八月より、民間取
組等と連携した自然環境保全(O
ECM)の在り方に関する検討
会を立ち上げ、認定プロセスな
ど、認定の仕組みについて検討を
重ね、二〇二二年より本申請前の
試行申請認定を経て、翌年二〇二
三年四月より、二〇二三年自然共
生サイト認定申請(前期)の受付
を開始した。

弊社は試行段階において、この
30 by 30目標、自然共生サイトの
認定取り組みに賛同し、認定申請
を提出するべく研究を始めた。弊
社社有林のうち、君津グリーンセ
ンター（元樹芸林業試験場）に絞
り、この自然共生サイト認定申請
(前期)に二〇二三年四月提出し、

同一〇月二五日認定証を授与され
た。

二. 君津グリーンセンター （元樹芸林業試験場）の概要

君津グリーンセンターは、高度
成長期における公園建設、全国の
高速道路等の公共事業および民間
事業、京葉コンビナートの工場等
への造園樹木の生産・供給、造園
技術者の養成のため、一九六六年
(昭和四十一年)に樹芸林業試験場
として千葉県君津市に開設された。
高岩山県立自然公園内にあり、広
さは約四〇haである。「きみつの
さんぽ道」と称する自然散策路も
あり、行政、公共団体、学校、各

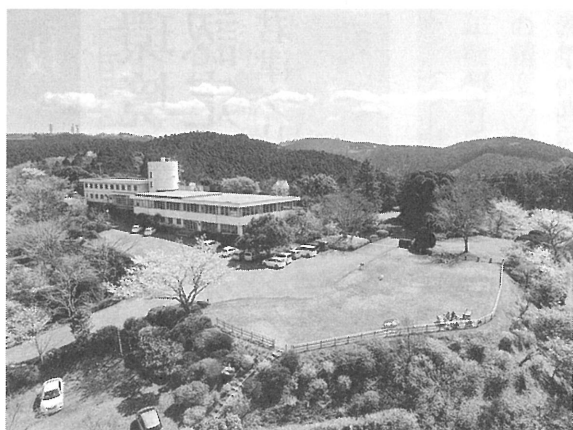


北西部より、君津グリーンセンター全体鳥瞰

ボランティア団体によって自然観
察の場、散策の場として広く利用
されている。また、都心に「自然
の森」を造る初めての試みとして
「大手町の森」のプレフォレスト
の設置試験場所として利用され、
「大手町の森」への樹木供給を担
った。東日本大震災で被害を受け
た地方においては、被害地域で採
取した地域種のドングリを君津グ
リーンセンターで生育させ、その
苗木を「鎮守の森プロジェクト」
が開催する植樹会へ供給している。
この君津グリーンセンターは五
七年前の一九六六年(昭和四十
一年)にあつて、山の斜面を削らず、
表土を崩さず、その山が本来もつ
ている自然の斜面を利用し、植物
群落を活かした生態系に優しい圃
場を造った。これが君津グリー
ンセンターの最大の特徴である。こ
れは、自然の摂理を損なわない
という弊社の基本理念に従ってい
る。

三. 自然共生サイト認定に 必要な基準

主に認定の審査に関わる基準は
次のとおりである。
一. 境界・名称に関する基準



君津グリーンセンター管理棟と展望台

二. ガバナンス・管理に関する基準

二. 一. 管理権限

二. 二. 管理措置

三. 生物多様性の価値に関する基準

四. 管理による保全効果に関する基準

準

四. 一. 管理の有効性

四. 二. モニタリングと評価

これらのうち、三と四に関して

は自然共生サイト認定申請において最も本質に触れる部分である。

「三. 生物多様性の価値に関する基準」は主に九つの価値に分けられ、

そのうち一つ以上の価値があれば認定の条件と合致する。弊社の君津グリーンセンターは、次の三つの価値があると考え、申請書に示

した。

四の価値…生態系サービス提供

の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な

生態系が存する場としての価値

六の価値…希少な動植物種が生

息生育している場、あるいは生息

生育している可能性が高い場とし

ての価値

九の価値…緩衝機能や連続性・

連結性を高める機能を有する場としての価値

次に「四. 二. モニタリングと評

価」については、現在該サイトに

に存在する生態系を定期的に観測

し、それをどのように管理してい

くのかを示す必要がある。

四. 自然共生サイト認定

申請で苦労したこと

申請サイトにおいて生態系を調

査しリスト化するには、鳥類、哺

乳類、両生類、昆虫等、各種生物

それぞれの深い専門的知識が必要

である。そして、定点観測等、長

い時間をかけ継続的で地道な観察

をコツコツと重ねる必要があり、

非常に手間のかかる作業である。

当初はこの難問をどのように解決

するか、途方に暮れた。しかし、

調査を続けていくうちに、この君

津グリーンセンターに接した場所

で活動するボランティアグループ

の継続的な調査リストがあること

を知り、またこの君津グリーンセ

ンターを常駐管理をする生態系に

詳しいスタッフの協力もあり、時

間はおかかったものの一定の内容あ

る生物多様性に関する資料、書類

を作成することができた。

五. おわりに

君津グリーンセンターは、一九

六六年（昭和四十一年）の開設当初

は樹木の生産や供給が主な目的で、

閉ざされた圃場としてスタートし

た。二〇〇〇年、淡路島で開催さ

れた国際園芸・造園博「ジャパン

フローラ二〇〇〇」において、

英国王立協会日本支部が出版した

庭園を引き取り、二〇〇一年四月

に「きみつのさんぽ道」に再現さ

せ、各種イベントと共に一般の方

々々への、より開放的な圃場とし

て変化してきた。また現在動いて

いるさまざまなプロジェクトや植

樹祭などの各種イベントへの貢献

を今後も継続していきたい。



マグノリアの小径（「きみつのさんぽ道」）

関根 武●せきね たけし

内山緑地建設株式会社 取締役
東京都葛飾区生まれ。施工では主に「東京ディズニールランド」の外構工事に携わり、営業としては主に「大手町の森」などに係った。

山室 功●やまむろ いさお

内山緑地建設株式会社 関東統括部
千葉県松戸市生まれ。四三年間の国内外のホテル建築設計を経て、二〇二二年内山緑地建設株式会社に入社。